

# 峠の向こうは春

## 第1回進路希望調査を行います。

修学旅行・中間テストも終わり、いよいよ6月です。みなさんは、3年生に進級してほぼ2か月が経とうとしています。これからも、一度しかない中学校生活が充実したものになることを願ってやみません。

さて、みなさんの中学校卒業後の進路について、節目節目に希望調査を行います。年間の予定は、第1回（6月）、第2回（8月末）、第3回（10月末～11月初旬）、最終希望調査（11月末～12月初旬）です。そして、最終希望調査に基づいて、三者懇談を行い、その上で受験する学校及び希望順序を確定します。

今回の第1回調査の目的は以下の3点です。

- 自分の進路を考え出す機会の一つとする。
- 自分の進路を考える機会を持つことで、今できる範囲で、興味をもった 高校の情報を集め出す機会とする。
- 担任の先生方にとっては、生徒の「進路」に対する理解を把握する機会です。

上記3点が調査のねらいなので、この調査結果で「進路希望は決まった！」となる必要はありません。気持ちを楽にして記入してください。

そこで、進路希望について簡単に説明します。

まず、進学するのか、就職するのか、今の時点でのあなたの希望を決めます。決めたら、その希望を保護者に伝え、同意を得ます。特に高校などに進学したい場合「進学させて欲しい」と保護者の方をお願いし、OKをもらう必要があります。

小学校から中学校までの学校教育は「親の義務」として法で決められていますが、中学校卒業後の学校教育は「親の義務」ではありません。近年、高校などに進学する人が圧倒的多数となり、それを「当たり前」と感じる中学生や大人が多いと感じますが、筋は通して欲しいと思います。

## 高等学校の学費について

高校などに進学する場合、どの高校に行きたいのかは、進学するあなたが決めます。ただし、高校への進学には費用がかかります。結構大きな額になります。この費用を負担するのは保護者の方です。あなたの進路希望には、保護者の方の同意が不可欠です。ですから、進路希望調査には保護者の氏名欄があります。必ず保護者の方と相談し、同意の上サインをもらってください。保護者本人がサインをされた場合、印鑑の押印は不要です。

さて、進路希望の説明を学費から始めたのにはもう一つ意味があります。高校選択の大きなポイントに「公立高校か私立高校か」というものがあります。この違いは「学費の違い」でもあります。たとえば、公立のS高校普通科に進学した場合、1年生の1年間で約410000円の学費が必要になります。私立のM高校に進学した場合は、約1080000円です。（共

に通学費を除く）倍以上の違いがありますね。

ここまで読んで、「親に負担をかけたくない！公立に行くぞ！」と思った親孝行なあなた、もう少し読んでください。実は国と京都府が「まじめに頑張る高校生」に学費の支援を行っています。

まず、京都の公立高校全日制に進学した場合、保護者の年収が約910万円以下の家庭に対し、118800円が支給されます。この場合、保護者の負担は約30万円となります。（京都府の）私立高校に進学した場合は、保護者の年収が約910万円以下の家庭に対し、198800円が、保護者の年収が約590万円以下の家庭に対しては、650000円（上限です）が支給されます。もし保護者の年収が約590万円以下であれば、私立のM高校に進学した場合の保護者負担は約43万円となり、公立高校より高額なことには変わりありませんが、差がぐっと縮まります。進路希望の最初をお金の話から始めるのは夢のない事ですが、現実にお金がかかるので、ここはしっかり理解し、保護者の方と相談してください。

## どんな高校生活にしたいか

学費の相談と同時に、何よりも大切なのは、「どんな高校生活を過ごしたいのか」「何を学びたいのか」を考え相談する必要があります。それによって、「望ましい高校（学科・コース）」が変わるからです。高校では普通科であってもコースによって授業科目が異なります。もちろん、専門学科となると、専門的な授業が行われますので、毎日の生活は大きく変わるでしょう。「こんなに多くの重要なことを、すぐには決められない」と思う人もいるでしょう。今回の希望調査ですべて決める必要はありません。最後の決定は12月です。今から考え始め、様々な状況の変化や自分の気持ちの変化に応じて、考え悩みながら決めていくのが進路希望です。

以下、具体的な希望調査の記入方法です。確認してください。

## 進路希望調査の記入上の注意

- ①保護者自署であれば印鑑は必要ありません。印鑑を押印していただくと、記入欄の訂正には、訂正印が必要となるので、ご協力お願いします。
- ②左側の第1表の記入について
  - ア 国・公・私に○を記入
  - イ 学校名は、「高校」の記入は不要です。例えば、西乙訓高校と書かずに、西乙訓と高校名のみ記入して下さい。
  - ウ 学科・系統・コースについては、
    - ・公立であれば、ほとんどが 学科のみですので  
例1 普通 例2 プロジェクト工学・ものづくり分野 と記入  
\*公立高校で多くの高校がコースを設置している場合がありますが、それは入学決定後に決定されるものですので、受検時には不要です。
    - ・私立であれば、学科・コースまで記入をしてください。  
例1 普通・進学 例2 普通・アカデミー と記入
  - エ 希望が公立なら 前期・中期のいずれかまたは両方に○を記入  
例えば、西乙訓高校が、第1希望で前期から受検し、残念な場合は中期も考えている場合は、左から順番に、西乙訓 普通 前期・中期両方に○を記入

オ **希望が私立なら、推薦・専願・併願のいずれかに○を記入**

ここで、私立高校の「推薦」「専願」「併願」を理解する必要があります。「推薦」は、高等学校が求める学力の基準を満たしているのと同時に、中学校長が「推薦に値する人物である」と認めた場合の受験型です。もちろん、合格の可能性は、他の受験型に比べて最も高いです。「専願」とは、高等学校が求める学力の基準を満たしており、「合格すれば、必ず入学します」という約束で受験する形態です。「併願」とは「進学したい高校は他にあるので、合格しても入学するとはかぎりません」という受験型です。高校としては、「推薦」「専願」受験者は確実に入学してくれるので、合否を判定する基準を併願受験者より低く設定します。（「推薦・専願」であれば合格だったが、併願なので不合格）があり得ます）ですから、第1希望校を受験するときは、推薦または専願で出願します。（**公立高校はすべて専願となります。**）この専願は同時に2つの高校に対して希望できません。（必ず入学することを同時に2校に対して約束できません。）でも併願ならば、同時に何校に対しても行えます。ですから、第1希望のA高校を専願、第2希望のB高校を併願で受験すれば、万が一、A高校が不合格でも、B高校に合格していれば、高校生になれます。このように第2希望校といっても、もしかすると進学するかもしれない高校なので、真剣に考えて選ぶ必要があります。

③右側の第2表について

**第1表と対応させてください。**

- ・前期選抜は、選抜方式まで記入してください。  
例えば、 乙訓 普通 A2
- ・中期選抜は、現在決定しているところまでで結構です、  
例えば、 洛西 西乙訓 斜線（第2志望がない場合）

④（エ）の記入について

**はっきりとした希望が決まっていない、順位が決まっていない等、その内容を記入**

⑤ 3 生徒・保護者の意見の一致・不一致 必ずどちらかに○を記入

⑥ 4 その他、補足説明・質問等を記入

今回は、第1回目ですので、具体的に決定している人は少ないと思います。ですから、「未定」と書いてもらってもかまいません。大切なのは、家の方としっかり話し合うことです。4の補足説明・質問の欄に現在の状況を書いてください。

※参考資料

- ①高等学校進学に関する希望欄の記入について
  - ②京都府に所在する私立高校
  - ③京都府公立高等学校の所在地・通学圏別志願できる学科（全日制）
  - ④前期選抜等の検査項目と配点比率
- ②～④の資料については、昨年度の資料ですので、みなさんが受検する令和6年度選抜・2024年度入試においては、変更の可能性がります。